# 第 4 回みやぎ観光振興会議登米圏域会議　概要

【委員からの主な意見】

① 戦略にある安全安心は，コロナ禍が終わってからも重要なキーワードになると思う。コロナの感染防止対策をしっかりやり，安全安心を見える化して発信することが今後の観光に必要。

② SDGs や DX 等，聞こえはいいが言葉だけが飛んでいて，内容を理解していない人が多いと思う。おじいちゃんやおばあちゃんにもわかるような表現，言い回しも必要。

③ SDGs を実際に現場で普及しようとしたときに，どうすることで市民に広められるかということを行政側で具体的に考えていく必要がある。

④ デジタル化に若い人の発想が必要とあるが，置いていかれるのは高齢者。高齢者でも使えるような仕組みが必要で，高齢者からも意見をもらい，作り上げていってはどうか。

⑤ GoTo トラベル事業の地域共通クーポンの利用店舗登録などは，当初は管内の事業者にはほとんど情報が伝わっていなかった。DX，IT，デジタルもいいが，情報伝達の基本的な部分からきちんと整備・体系化してほしい。

⑥ 将来，観光事業に従事するプレイヤーとなる世代をいかに育てるかということが大切。教育委員会等と連携し，小学生から高校生を対象とした観光業を知ってもらう取組を行ってはどうか。

⑦ 子育て支援は多くあるが，それ以前に，若い人たちに結婚する気持ちを起こさせる施策，結婚を支援する政策が必要。

⑧ 仙台だけではなく，県北でもインバウンドに取り組む必要がある。現状ではコロナの関係で先が見えないが，無料 Wi-Fi の整備や多言語化対応の支援等，受入態勢整備を進めていく必要がある。

⑨ 「おかえりモネ」では，放送が終わってからも地域を盛り上げていけるような官民一体となった体制づくりが必要で，全体で連携して動いているという見せ方も大事。

⑩ 地域観光を活性化するためには，個人で積極的に動く地元のプレイヤーが重要。地元の人に地元の観光地を見て，知ってもらい，地元を好きになって動いてもらえる仕組み，積極的に情報発信してもらえる仕組みが必要。

⑪ 登米市では様々な分野で担い手が不足。若者だけではなく，セカンドライフを迎える人などへのアプローチも必要。シニア世代が楽しめる場所もつくっていくべき。

⑫ 山形県鶴岡市に農業経営者育成学校ができたが，登米市でも農業が盛んな地域である点を生かし，農業や畜産，果物等を学ぶことができる官民が連携した学校ができればと思う。

⑬ 登米町の宮城芸術文化館館長らの関係で，ヴァイオリン工房の学校ができるという話もあり，特定の分野でも興味のある人は来てくれる。そういったものを観光に結びつける取組も必要。

⑭ 農泊と観光との連携，ワーケーションなど，観光でも来てもらうし，仕事としても来てもらうなどの仕組みを長期的な視点でつくることが必要。

⑮ 登米地域は，ビジネスモデル転換をあまり意識する必要はないと思う。今までの取り組み，地域の良さを活かした取組を，充実・実践していった方がいいと思う。

⑯ 登米市の観光の核は，みやぎの明治村。そこを中長期的に支援できる仕組み，計画を行政としてしっかり考えてほしい。

⑰ みやぎの明治村は，登米市への合併前は旧登米町民は無料で観覧できたが，今は有料。子供たちをはじめ，市民が気軽に見られるような仕組みにしていきたい。

⑱ 観光関連産業で働く人が仕事を続けられることが重要であり，特に収入面の確保が重要。コロナ禍においては通信販売が伸びており，ノウハウを共有していければと考えている。

⑲ SNS の活用は，まずはフォロワー数を増やすことが必要。小さなイベントなどを取り上げ，その関係者にフォローしてもらうことも一つの手法。地域の施設紹介も 1 回取り上げて終わりではなく，細かくアップして継続していくような工夫が必要。

⑳ 登米市は観光資源が点在するため，タクシー等の二次的な移動手段が重要となってくるが，タクシー単体ではコスト的にあわないので，パッケージ商品として，そこに旅客運送として関われるような仕組みができればよい。